

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

果樹カメムシ類新世代の発生状況（技術情報第12号）について（送付）

本年の果樹カメムシ類新世代の状況について取りまとめましたので、防除指導に利用していただくようお知らせします。

チャバネアオカメムシの予察灯誘殺数およびヒノキ球果の口針鞘数は、地域により差がみられ、宇城地域や菊池地域等、既に球果からの離脱が始まっていると思われる地域では、果樹園の一部で被害が確認されている。

記

1. 対象作物：カンキツ類、カキ、ナシ
2. 発生状況：
 - 1) チャバネアオカメムシの予察灯における誘殺数は、合志市では8月1半旬以降、宇城市では8月5半旬以降減少しており、天草市では8月3半旬以降増加傾向にあり、地域により誘殺消長が異なった（図1，2，3）。また、8月第1～6半旬の累積誘殺虫数は、合志市が平年並、宇城市が平年比多、天草市が平年比少であり、地域により差が見られた（表1）。
 - 2) ヒノキ球果に寄生する新世代成幼虫数は、7月下旬をピークに減少し、9月上旬には3.3頭/5枝（平年値4.7頭/5枝）と平年よりやや少なかった（図4）。
 - 3) ヒノキ球果の口針鞘数は、7月下旬調査に基づく離脱予測日が平年（9月6日）より早いと予測された地域（合志、松橋、三角）では25本/果を超え、既に球果からの離脱が始まっていると考えられる。その他の地域では、9月下旬から離脱が始まると思われる。（表2）。
 - 4) 普及指導員および病害虫防除員の報告によると、既に球果からの離脱が始まったと思われる地域があり、園地への飛来によりカキや極早生温州の一部で被害が認められている。
3. 防除上注意すべき事項：
 - 1) 果樹カメムシ類は、主に山林のスギ・ヒノキ球果を餌として増殖する。球果の口針鞘数が25本/果を超えると餌の状態が悪くなり、増殖場所から離脱して周辺の果樹園に飛来する。
 - 2) 本年は地域により口針鞘数に差がみられ、既に離脱が始まっていると思われる地域では、一部の園で被害が確認されているため、今後園内での発生に十分注意する。
 - 3) カメムシ類の発生時期や飛来量は地域や園地による差が大きく、同一園内でも局在

するので、園内を観察し早期発見、早期防除に努める。なお、カメムシ類は夕暮れ時に園外から侵入し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効である。

4) 被害が認められた場合は直ちに防除を実施するが、薬剤の使用回数、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺作物への農薬飛散(ドリフト)に注意する。

5) 使用する薬剤により、ハダニ類やカイガラムシ類が増加する場合があるので注意する。

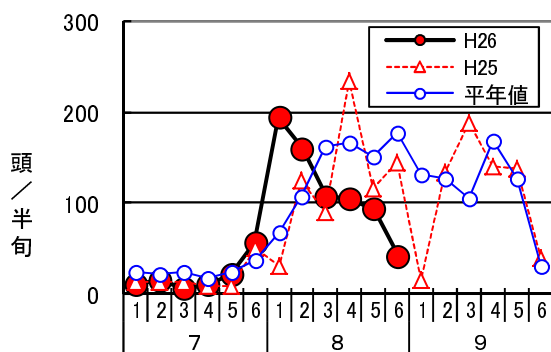


図1 チャバネアオカメムシ予察灯誘殺数の推移 (合志市)

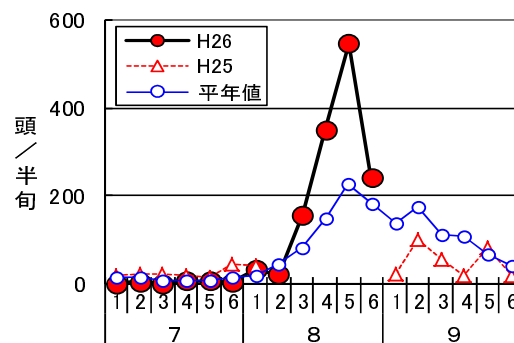


図2 チャバネアオカメムシ予察灯誘殺数の推移 (宇城市)

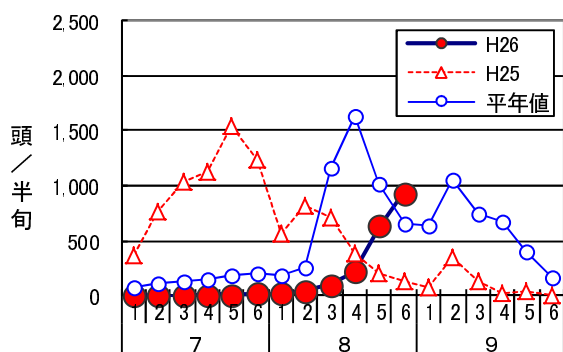


図3 チャバネアオカメムシ予察灯誘殺数の推移 (天草市)

表1 各地域におけるチャバネカメムシの予察灯誘殺状況(8月第1~6半旬合計)

地域名	誘殺数
合志	705 (833)
宇城	1,346 (705)
天草	1,938 (4,915)

単位：頭、()内は平年値

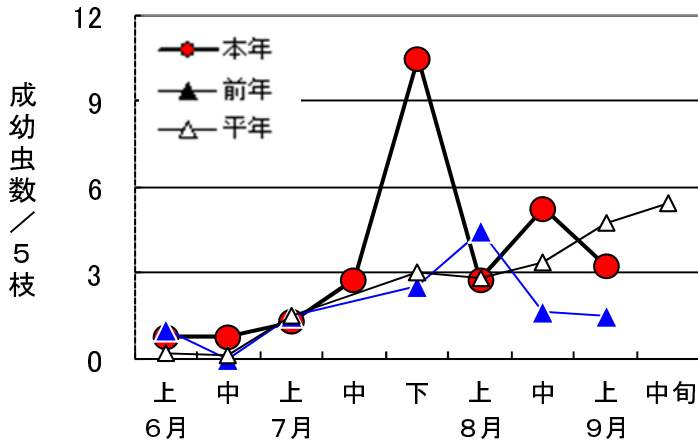


図4 ヒノキ球果に寄生する成幼虫数の推移
(熊本市、宇城市、合志市で4地点を調査)

表2 ヒノキ球果各地点ごとの口針鞘数

調査地域	調査時期	9月上旬	7月下旬調査に基づく 離脱予測日
	地点		
熊本地域	熊本市河内町	22.4	9月23日
宇城地域	宇城市松橋町	42.7	9月6日
	宇城市三角町	32.6	8月22日
菊池地域	合志市 栄	34.3	8月24日
天草地域	天草市有明町	17.8	9月24日
	天草市本渡町	6.4	9月23日
	天草市栖本町	14.0	9月24日
	天草市新和町	1.6	9月24日
	苓北町	5.5	9月20日
平均値		19.7	
昨年値		35.0	8月21日
平年値		20.3	9月6日

白抜きの数値は口針鞘数が25本/果を超えていることを示す。

問い合わせ先
 熊本県病害虫防除所
 (生産環境研究所)
 担当:清永
 TEL 096-248-6490